

(1) 中学生期のキャリア発達課題

中学生期の発達の段階にある生徒は、小学校段階と比べ心身発達上の変化が顕著に表れ、能力や適性、興味や関心等の多様性が進み、個性や価値観の伸長が著しく変化する時期でもある。またこの時期においては身体的、性的な成熟も進み、内面的な成長と共に社会性や自己の生き方について関心も高まる時期であると言える。一方で、中学生は、現実的に進路の選択を迫られ、自分の意志と責任で決定しなければならない。

このような発達の段階にある中学生が、自分を見つめ直し、自分と社会とのかかわりを考え、将来における多様な生き方や進路選択の可能性を理解し、自らの意思と責任において自己の生き方や進路選択ができるような能力、言い換えれば、まさしく社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力をはぐくむことは大変重要である。

以下の「表5-2」は、中学生期のキャリア発達の主な特徴を学年ごとに整理したものであるが、ここに例示される特徴は、様々な調査研究等の成果を踏まえて得られた「平均像」をまとめたものであり、それぞれの地域や学校によって実情が大きく異なることは当然である。また、個々の生徒のキャリア発達については、身体的な発達と同様に、一人一人がそれぞれ固有の発達のプロセスをたどるものであることから、「表5-2」を固定的な標準として理解することは誤りである。本表は、キャリア発達の視点から各学年の生徒を理解する上での参考資料、各学年での目標設定の際のたたき台などとして活用されたい。

表5-2 中学校段階におけるキャリア発達の特徴の例

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> ●自分のよさや個性が分かる。 ●自己と他者の違いに気付く、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。 ●集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 ●将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ●学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。 ●将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。 ●社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的に捉えるようになる。 ●体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ●よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ●将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。 ●社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ●係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。 ●課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ●将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

出典：文部科学省『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引』平成18年

このようなキャリア発達段階にある中学生期においては、本章第1節で整理したように、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」が特に重要な課題となる。各中学校においては、これらを基盤としつつ、生徒や地域の実態を踏まえ、学校のこれまでの取組などを生かしながら、「基礎的・汎用的能力」に示される4つの能力（「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」）それぞれについて具体的な目標を設定していくことが必要である。

(2) 各教科等との関連

① 「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」との関連

キャリア教育はすべての教育活動を通して実践されるものであるが、生徒一人一人の「生き方」に直接働きかける「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」は、特に重要な実践の場となる。また、各教科におけるキャリア教育の取組は、それぞれの単元等の特質に応じた「断片」となる傾向が強いが、それらの学びがより広く深く生徒の内面に生かされるためには、教科間を横断的につなぐ機能が必要となってくる。その役割を中心的に担っているのも「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」である。

特に「主として自分自身に関すること」「主として他の人とのかかわりに関すること」「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」「主として集団や社会とのかかわりに関すること」を柱とする「道徳」は、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する」ことを目標とするものであり、キャリア教育との関連が極めて深い。さらに、道徳の時間は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などの指導と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合するものとして位置づけられる。

また「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標とする「特別活動」、とりわけ「適応と成長及び健康安全」「学業と進路」等を内容とする「学級活動」は、キャリア教育の中核的な実践の場である。このような特別活動においてもまた、各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図ることは指導計画の作成上不可欠である。

「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通すこと」を目標とする「総合的な学習の時間」が、それぞれの教育活動を通したキャリア教育の実践をつなぐ可能性を持っていることは言うまでもない。総合的な学習の時間においては、各教科、道徳及び特別活動で身に付け

た知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることが重要であり、各教科等で別々に身に付けた知識や技能をつながりのあるものとして組織化し直し、改めて現実の生活にかかわる学習において活用し、それらが連動して機能するようにすることが求められている。

② 各教科との関連

本報告書第1章において言及した通り、キャリア教育は「生きる力」をはぐくむためのひとつの教育活動である。「基礎的・汎用的能力」も、社会的・職業的自立や社会・職業への移行に必要な「基礎的・基本的な知識・技能」を身に付けさせる上で不可欠な各教科の上に成り立っているものであり、同時に各教科は、それぞれの単元等の特質を生かしたキャリア教育の実践の場としても極めて重要である。

これまでも各教科において多様に展開されてきたキャリア教育であるが、ここでは、「基礎的・汎用的能力」の育成という視点から特に関連する部分に注目し、各教科の学習指導要領解説から具体例を示しながら、各教科とキャリア教育との関連について整理したい。無論、ここで示す各具体例はあくまでも「例」であり、各教科を通したキャリア教育の実践はこれらの「例」に限定されるものではない。それぞれの中学校や地域の特徴、生徒の実態などに応じた各学校の創意工夫ある取組が強く期待される。

【人間関係形成・社会形成能力】

人間関係形成・社会形成能力の育成については、「自己と他者」「集団、社会」を意識した視点が必要となる。他者の理解と尊重、多様な他者と協働するためのチームワークやコミュニケーション、社会への参画など、教科との関連も極めて深い。

【例】国語（第1章2 国語科改訂の趣旨 p. 3）

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。

生徒の言語に対する関心や理解を深め、言語活動を充実することはすべての教科等の指導に当たって配慮すべきことであるが、コミュニケーションの基盤となる言語の能力を培う上では「国語」や「外国語」が特に重要な役割を担っている。また、例えば、「音楽」における「表現」や「鑑賞」の指導に当たっては、生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導が求められている点などに留意する必要がある。

【例】保健体育（第2章第2節2 E球技〔第3学年〕2態度 pp. 93-94）

(2) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、自己の

任を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(中学校学習指導要領 第2章 第7節保健体育 第2各分野の目標及び内容 [体育分野 第3学年] 2内容 E球技)

「自己の責任を果たそうとすること」とは、練習や試合の進行などで、記録や審判、キャプテンなどの仲間と互いに合意した役割に、責任をもって自主的に取り組もうとすることを示している。そのため、自己の責任を果たすことは、活動時間の確保につながることやチーム内の人間関係が良くなること、自主的な学習が成立することを理解し、取り組めるようにする。

「話し合いに貢献しようとする」とは、チームの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、チームの話し合いに責任をもってかかわろうとすることを示している。そのため、相互の信頼関係を深めるためには、相手の感情に配慮しながら発言したり、提案者の発言に同意したりして話し合いを進めることなどが大切であることを理解し、取り組めるようにする。

運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待でき、キャリア教育の視点を生かした実践が特に期待される。この他、例えば、「美術」においては、他者の立場に立って、伝えたい内容について分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ることが求められており、人間関係を形成する力の育成に大きく貢献するものである。

【例】技術・家庭 (第2章第3節 1家庭分野の目標 p.38)

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。(中学校学習指導要領 第2章 第8節技術・家庭 第2各分野の目標及び内容 [家庭分野] 2目標)

「家族・家庭と子どもの成長」では、幼児の成長や家族・家庭に関する学習を進める中で、人間が心身ともに成長し、家族の一員としての役割を果たすことの意義や周囲の人々との人間関係の大切さなどを理解し、よりよい生活を主体的に工夫できる能力と態度を育てることをねらいとしている。

これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族の一員としての役割を果たし、家庭における人間関係をよりよくする方法を考えることは、「技術・家庭」における学びとして重要であるだけでなく、人間関係形成・社会形成能力をはぐくむキャリア教育にとっても必要不可欠な要素である。この他、例えば、「保健体育」においては、運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てることが求められ、人間関係形成・社会形成能力の育成上重要な役割を果たすことが期待されており、また、「社会」の「公民的分野」においては、民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせるなど、人間関係形成・社会形成能力を直接的に高めるための機会となっている。

【自己理解・自己管理能力】

自己理解・自己管理能力については、社会との相互関係から自分について知ることの重要性を意識した視点が必要となる。また、自らを律する力や自らを研鑽する力などは自己管理能力の重要な要素である。

【例】音楽（第2章第2節 2(1)③音楽によって喚起されるイメージや感情 p. 14)

音楽は、その音楽固有の表情、雰囲気、気分や味わいを醸し出している。これが曲想であり、一人一人が自己のイメージや感情を伴って、音楽との相互作用の中で感じ取ることになる。曲想は、音楽を形づくっている要素や構造の働きによって生み出されるものであるから、それらをとらえることによって、曲想をより深く味わうことが可能となる。

曲想を感じ取りながら、それを音楽の構造とのかかわりにおいて再度とらえ直すといった活動を繰り返すことによって、生徒の感じ取った内容が質的に深まり、イメージや感情も広がり豊かになる。したがって、生徒一人一人がこうしたイメージや感情を意識し、自己認識をしながら表現活動を進めていくことが大切になってくる。

【例】美術（第2章第1節 1教科の目標 pp. 6-7）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。（中学校学習指導要領 第2章 第6節美術 第1目標）

「美術を愛好する心情を育てる」について

「愛好する心情を育てる」ためには、自分のしたいことを見付け、そのことに自らの生きる意味や価値観をもち、自分にしかない価値をつくりだし続ける意欲をもたせることが重要である。したがって、美術を愛好していくには「楽しい」、「美にあこがれる」、「考える」、「時の経つのを忘れて夢中になって取り組む」、「目標の実現に向かって誠実で忍耐強く自己努力をする」、「絶えずよりよい創造を目指す」などの感情や主体的な態度を養うことが大切である。

生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫することはすべての教科等において必要であり、全教科を通して生徒の自己理解を深めるための働きかけが求められている。上に挙げた「音楽」や「美術」ととどまらず、例えば、「国語」においては読書を通して自己を向上させようとする態度を育てること、「保健体育」では自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすること、自らの健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育てることがそれぞれ求められており、これらの教科は、生徒の自己理解・自己管理能力を高める上で特に大きな貢献が期待されていると言えよう。

【課題対応能力】

課題対応能力は、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善などを要素とするものであり、情報機器の活用等も含まれる。それらが総合的に作用し「課題発見、課題解決」の能力となって現れてくる。

【例】数学（第2章第2節 2 B図形(2)指導内容の概観 pp. 42-43)

今回の改訂では、すべての学年で「観察、操作や実験などの活動を通して」という文言が入っている。これは、不思議に思うこと、疑問に思うこと、当面解決しなければならない課題などをよく観察し、見通しをもって結果を予想したり、解決するための方法を工夫したり、予想した結果を確かめたりするために観察、操作や実験などの活動を通して、図形の学習を行うことをねらいとしている。

【例】外国語（第2章第2節 英語 3(1)指導計画の作成上の配慮事項 p. 50)

指導に当たり、視聴覚機器を効果的に使うことによって教材が具体化され、生徒にとって身近なものとしてとらえられるようになる。また、生徒の興味・関心を高め、自ら学習しようとする態度を育成することができると考えられる。こういった教育効果をより一層高めることができるものとして、また、生徒が自分の学習の進度に合わせて活用できるものとして、コンピュータの様々なソフトウェアを活用することなども考えられる。コンピュータや情報通信ネットワークを使うことによって、教材に関する資料や情報入手したり、電子メールによって情報を英語で発信したりすることもできる。このような活動を通して、生徒一人一人が主体的に世界とかかわっていかうとする態度を育成することもでき、教育機器は英語教育にとって大切な役目を果たすものとして考えられる。

新しい中学校学習指導要領は、各教科等において、基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視すること同時に、生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実すると共に、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることを求めている。これらの学習活動は、「基礎的・汎用的能力」の一環としての「課題対応能力」を高めることに直接的に寄与するものである。

上に挙げた「数学」や「外国語」に限らず、例えば、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせる「国語」、身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養う「社会（地理的分野）」、歴史的事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視する「社会（歴史的分野）」、持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがより良い社会を築いていくために解決すべき課題を探究させ、自分の考えをまとめさせる「社会（公民的分野）」、自然の事物・現象の中に問題を見だし意欲的に探究する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる「理科」、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする「保健体育（体育分野）」など、すべての教科において、それぞれの特質に応じた「課題対応能力」の向上が求められている。

【キャリアプランニング能力】

キャリアプランニング能力は、「働くこと」を意識しながら将来について「考える」「実践する」「学ぶ」「選択する」などの能力であり、自らの将来を展望し設計することに直接的にかかわる能力である。

【例】社会（第2章第2節 [公民的分野] 2(2)私たちと経済 pp. 103-105)

ア市場の働きと経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連付けて考えさせる。(中学校学習指導要領 第2章 第2節社会 第2各分野の目標及び内容 [公民的分野] 2内容)

「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質と関連付けて考えさせる」については、職業の意義や雇用などについては、それが家計を維持・向上させるだけでなく、個人の個性を生かすとともに、個人と社会とを結び付け、社会的分業の一部を担うことによって社会に貢献し、社会生活を支えるという意義があることについて考えさせることを意味している。また、家計を維持・向上させる上で、雇用と労働条件の改善が重要であることについて気付かせ、産業構造の変化や就業形態の変化、内容の(1)のアの「現代日本の特色」についての学習などと関連付けながら考えさせることが大切である。その際、勤労が国民の権利であり義務であることや職業選択の自由が保障されていることと関連付けて考えさせるとともに、正しい勤労観や職業観の基礎を培うことが必要である。また、労働条件の維持・改善及び経済的地位の向上を図ることを主たる目的として労働者が自主的に組織する労働組合の意義や労働基準法が労働者が人たるに値する生活を営むための最低の基準を定め、労働者を保護しようとしていることと関連付けて考えさせることが必要である。

【例】理科（第3章 2(3)日常生活や社会との関連 p. 106)

生徒の将来とのかかわりの中で理科を学ぶ意義を実感させ、様々な課題に自立的に対応していくためには、理科で学んだことが様々な職業やその後の学習と関連していることや、理科の学習で養う科学的な見方や考え方が職業にも生かされることに触れることが大切である。例えば、授業の中で自然の事物・現象とのかかわりのある様々な職業に言及したり、科学技術に関係する職業に従事する人の話を聴かせたりすることなどが考えられる。

【例】技術・家庭（第2章第2節 1技術分野の目標 pp. 14-15)

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。(中学校学習指導要領 第2章 第8節技術・家庭 第2各分野の目標及び内容 [技術分野] 1目標)

以上のような技術分野の学習は、工夫・創造の喜びを体験する中で、勤労観や職業観、協調する態度などを併せて醸成するものであり、それは、これからの社会で主体的に「生きる力」の育成を目指して展開されるものである。

一人一人の生徒が、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を高め、自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるようにすることは、中学校教育の重要な課題の一つであり、「キャリアプランニング能力」育成のための実践の場は、上に挙げた「社会」「理科」「技術・家庭」にとどまるものではない。例えば、「美術」では、主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすることが求められており、「保健体育」では生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることが目標の一部として位置づけられている。

(3) 地域や学校及び生徒の特徴などに応じた実践例

キャリア教育の実践を進める上において、特に留意しなければならない点としては、各校の実態などを踏まえ、学校教育目標の具現化の手立てとなっていることがあげられる。様々な創意工夫ある実践に取り組んで成果をあげている中学校も多いが、キャリア教育の目的や目標が学校のニーズとマッチせず、前年度までの実践の繰り返しに終始するのみの取組も少なくない。各校の実態に応じた、効果的で特色あるキャリア教育を推進していくためにも、以下に掲載する実践事例を参考としていただきたい。

① D中学校の事例—多様な体験学習を主体とした総合的なキャリア教育の実践—

<p>《地域の状況》 学校区は、新駅が設置された新しく活気のある街である。ショッピングセンター等も建設され、新たな事業所等も多い。街全体が新しく新住民も多く、若さと活気にあふれた校区に学校がある。</p>	<p>《学校の概要》 生徒数/456名 学級数/12学級</p> <p>《学校教育目標》 一、豊かな心 一、学ぶ力 一、健全な身体</p>
---	---



<p>《キャリア教育目標》 あたたかみのある人間関係に立ったキャリア教育の推進 —人間関係をはぐくむための体験学習の推進— 1学年/夢を語ろう！A中生！ 2学年/夢を探そう！A中生！ 3学年/夢に向かって！A中生！</p> <p>重点目標 { ①人間関係形成・社会形成能力をはぐくむキャリア教育の推進 ②社会体験学習の充実と道徳、学級活動を生かした事前・事後指導の体系化 ③総合的な学習の時間を生かした生き方の指導の推進</p> <p>《特に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力》</p>			
<p>人間関係形成・社会形成能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動への主体的参加 ・自他の理解の深化 ・社会への興味・関心の拡大 	<p>自己理解・自己管理能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動による自己理解・相互理解の深化 ・自己の意思と責任による多様な活動 ・自己の役割の理解 	<p>課題対応能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動からの課題発見 ・主体的な課題解決 ・進路選択に向けた活動の展開 	<p>キャリアプランニング能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に向けた具体的な実践 ・学ぶこと・働くことへの理解 ・進路選択への価値観



《キャリア教育の目標》《特に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力》などの設定の背景と経緯
 本校は開校15年目を迎える比較的新しい学校である。校区内の住民の平均年齢も比較的若く、新しく活気のある街である。しかしながら、新住民がほとんどで、地域の一体感や学校への協力体制も希薄である。伝統の浅い学校であるので、教育活動のメインとなる取組がない。その結果、生徒間の人間関係に対する意識や信頼感も薄いものとなり、生徒指導上の課題も多く発生している。
 そこで、キャリア教育におけるはぐくむ能力と実践の質に着目し、人間関係形成・社会形成能力の育成と、今後学校の「顔」ともなる体験活動の充実を目指し、本実践に取り組んでいる。結果として、「地域との連携」「体験活動の充実」に成功し、様々な機会に思いやりや優しさが見られる場面が多くなってきた。

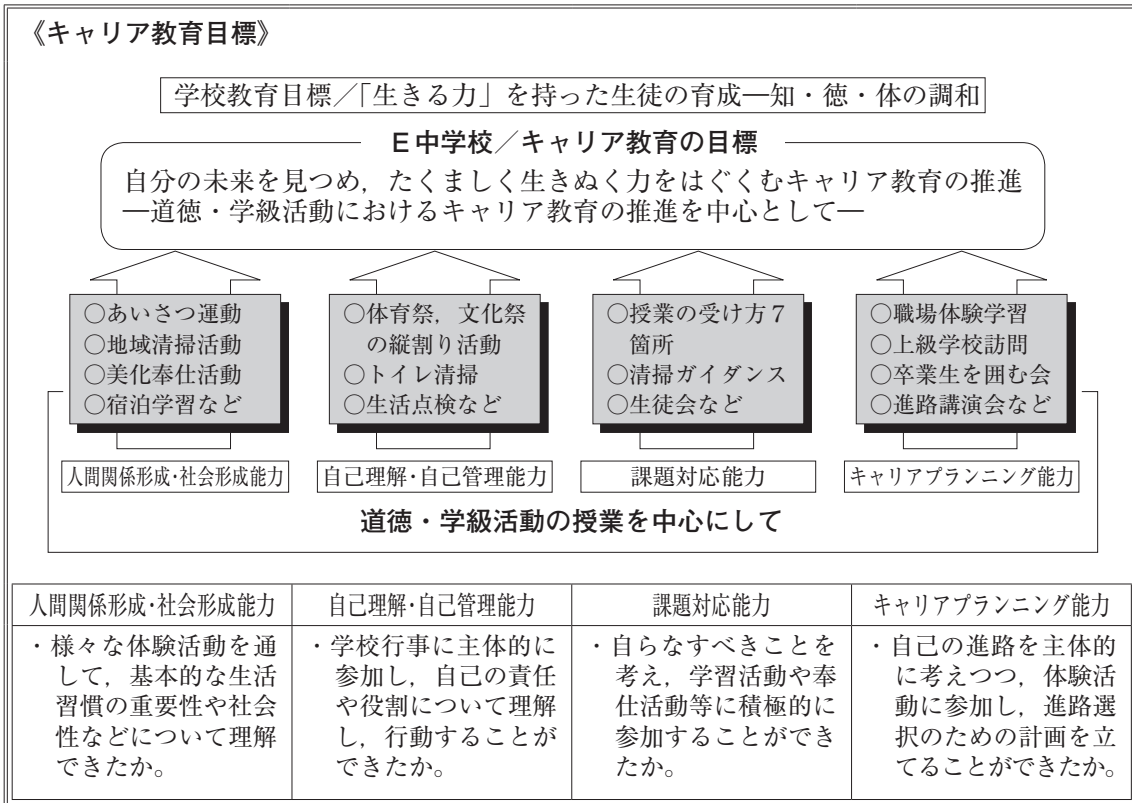
<p>《実践例—1年生 特別活動「富士山宿泊学習」》 実施時期／5月末 ねらい／「学級への適応指導」 展開／①各自課題を設け、富士山をテーマにした調べ学習の実践【*1】 ②調べ学習を生かした富士山への宿泊学習（1泊2日） 学習テーマに沿って、4つの探索コースを設定【*2】 ③学習内容のまとめと発表 成果／調べ学習の取組方の把握【*3】 学級・学年集団の人間関係形成のきっかけづくり</p> <p>《実践例—1年生 総合的な学習の時間「職場体験」》 実施時期／11月 ねらい／「生徒間の人間関係の構築」「適応指導の充実」「保護者・地域との連携」 展開／①職場体験で学びたい個々の課題を設定【*4】 ②職場体験の受入先を個々の生徒が見つけたら決定【*5】 ③事前訪問を経て3日間の職場体験の実施 ④事後訪問及び発表会【*6】 成果／自分で事業所を見つけることによる自信と成長 （パフォーマンス能力の向上） 保護者、地域との連携の強化 事業所の方とのかかわりによる価値観の変化</p> <p>《実践例—2年生 特別活動「修学旅行による職場体験」》 実施時期／2月（2泊3日） ねらい／「職業観・勤労観の理解」「働く意義の体験的理解」 「課題対応能力の向上（学習プロセスの理解）」 展開／①修学旅行における個々の生徒の課題の設定【*7】 ②京都修学旅行での職場体験先の探索【*8】 ③京都修学旅行における職場体験先の決定 ④修学旅行による職場体験（半日／2日目午前中） ⑤報告書及び礼状作成と発表会 成果／課題対応能力の向上 京都の方とのふれあいによる価値観の変化 集団としての人間関係の強化</p> <p>《実践例—3年生 特別活動「進路を考える会」》 実施時期／7月（半日開催） ねらい／「進路意識の向上」「進学への意識の高揚」「進路選択に対する保護者の理解」 展開／同日開催 ①上級学校訪問の報告会 ②進路パネルディスカッション （パネラー／社会人、大学生、専門学校生、高校生、高校教諭、中学校教諭、保護者）【*9】 成果／進路への意欲・意識の向上 進路選択への保護者の理解と価値観の変容</p>	<p>《特に注目すべき点》</p> <p>【*1】富士山をテーマにした学習課題はたいへん豊富である。 【*2】富士山はNPO団体の活動が盛んで、支援を受けやすい。 【*3】富士山をテーマにして、課題I設定—調査—体験—発表の流れをコンパクトに学ぶことができる。 【*4】職場体験で自分が何を学びたいかを明確に指導する。 【*5】職場体験先事業所を生徒個人が見つめることにより、地域との接点広がる。また、事業所とのかかわりの中から動機付けが高まる。 【*6】実践にかかわってくれた多くの方を招待する。また、地域の方や小学6年生を招待し、評価者を増やす。 【*7】体験を充実したものとするために個々の課題を明確にする。 【*8】生徒個々が工夫を凝らして、様々な調査をおこなう。また、1年生職場体験での経験が生徒に生きる。 【*9】様々な立場のパネラーから意見を聞くことにより、様々な価値観で進路を考えることが理解できる。</p>
---	--

《本実践事例から得られる示唆—他校への応用にあたって—》

- 体験活動は、3年間の生徒の変容を見通し、活動自体が有機的に接続する指導の流れ
- 保護者・地域等外部機関との積極的な連携
- キャリア教育における生徒一人一人の課題の明確化

② E中学校の事例—道徳・学級活動を主体としたキャリア教育の実践—

<p>《地域の状況》 街の中心部から郊外に位置した昭和後半の新興住宅街にある。生徒数は昭和後半にピークを迎え、現在は減少傾向にある。 市内全体が少子・高齢化傾向にあり、特色的な産業などもなく、全体的に躍動感の少ない地域である。</p>	<p>《学校の概要》 生徒数／331名 学級数／9学級 《学校教育目標》 「生きる力」を持った生徒の育成 —知・徳・体の調和— ・自ら学び、互いに高め合う生徒 ・思いやりのある生徒 ・心身共にたくましい生徒 《学校の現状》 数年前に生徒指導上の課題が多発した状況がある。課題解決に向けて道徳や学活を中心としたキャリア教育の研修に取り組んでいる。</p>
---	--



《キャリア教育の目標》《特に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力》などの設定の背景と経緯

本校は、数年前に生徒指導上での大きな課題を抱え、問題行動が多発する学校であった。当時は終始、消極的な生徒指導に追われる状況があったが、根本的な解決には至らなかった。

本来の学びの場としての学校の機能を根本から立て直すため、「豊かな心をはぐくむ道徳」と「将来を動機付けにし、いまをがんばれる力をはぐくむキャリア教育」を接続し、キャリア教育の推進に3年前から取り組んだ。

「体験活動を生かす道徳」「生き方を考える道徳」「学級を支える学級活動」「地域・保護者との連携による体験活動」「創意ある体験活動」などの推進により、徐々に生徒に笑顔があふれ、活気ある学校へと変化を遂げてきている。

《実践事例—第3学年における取組を中心に》	《特に注目すべき点》
<p>4月／学活：「学級オープニングプログラム」内容／(1)-イ, (2)-オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の構築（エンカウンターなどの実施） ・集団のルールの確認（ソーシャルスキルトレーニングなどの活用） ・役割と自覚（係り，委員会決定など） <p>○学年集会：清掃活動ガイダンス【*1】</p> <p>5月／道徳：「何のために働くのか？」【*2】内容項目／3-(1) 4-(5)</p> <p>学活：「学級の課題を克服しよう」内容／(1)-ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣や集団生活の改善への学級討議 <p>○あいさつ運動【*3】</p> <p>6月／道徳：「私の悩み」－進路について相談しよう－【*4】</p> <p>内容項目／1-(4), (5)</p> <p>学活：「いいところ探偵」・自己PRができるよう自分の長所を調査する 内容／(2)-イ</p> <p>○体育祭：縦割り活動</p> <p>7月／道徳：「イチロー選手，石川遼選手，北島康介選手から進路選択を学ぶ」【*5】内容項目／1-(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心を磨くトイレ清掃：素手によるトイレ清掃 ○卒業生を囲む会：異校種の先輩から進路について考える。 <p>8月／○上級学校訪問：2年次は班別行動で実施。3年では，希望校を中心に訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域清掃：全生徒が学校より地域に出での清掃活動 <p>9月／道徳：「てんびんばかり」－なぜ働くことは大切なのか－【*6】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化祭：縦割り活動 内容項目／4-(4), (5) <p>10月／道徳：「あいつの進路選択」－友人の進路選択－【*7】</p> <p>内容項目／1-(5) 2-(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路講演会：職業人による進路や生き方にかかわる講話 ○福祉体験：ハンディキャップのある方の講演，インスタントシニア，トラストウォーク，車いす体験などの活動 <p>11月／学活：「中退を考えよう」・中途退学についてデータを参考にロールプレイにより考える。内容／(3)-ウ</p> <p>12月／学活：「受験校についてまとめよう」内容／(3)-ウ</p> <p>1月／道徳：「社会の一員として」【*8】内容項目／1-(3) 4-(2)</p> <p>2月／学活：「卒業に向けて」内容／(1)-イ, ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業を控え，3年間の軌跡についてまとめる ・お世話になった方々へのお礼 <p>3月／○3年生を送る会</p> <p>学活：「拝啓，20歳の君へ」・二十歳の自分へのメッセージ</p> <p>○卒業式 内容／(3)-オ</p>	<p>【*1】「ひとつ拾えば，ひとつきれいになる」をテーマに清掃の重要性を確認する講演。</p> <p>【*2】末期ガン患者に美容を施す美容師のエピソードから「働くこと」について考える。</p> <p>【*3】生徒，保護者，地域の方によるあいさつ運動</p> <p>【*4】自分の進路に対する悩みを友人と共有化する活動</p> <p>【*5】イチロー選手，石川遼選手，北島康介選手の文集を資料として，進路選択について考える。</p> <p>【*6】雨でも嵐でも，台風でも，働く鉄道員のエピソードから，なぜ働くのかについて考える。</p> <p>【*7】友人の進路選択のエピソードから，自分の進路選択の在り方について考える。</p> <p>【*8】職業人以外の人生について，ボランティアなどの多様な視点から考える。</p>

《本実践事例から得られる示唆—他校への応用にあたって—》

- キャリア教育の基本的な活動ステージとなる，道徳，特別活動の重要性
- 道徳・学級活動，体験活動などの行事とのかかわりと系統性
- 道徳による生き方にかかわる教育の汎用性
- 事前・事後指導の重要性と機能的計画

③ F中学校の事例—美術科の授業からアプローチする—

<p>《地域の状況》 首都近郊の通勤圏にある住宅街に位置する中学校であり、学校の近隣には商店街や大手量販店、デパートの商業施設や行政機関、高校・大学などがある。</p>	<p>《学校概要》 生徒数757、学級数20学級 《学校の教育目標》 自主性：すすんで学び、考えて行動しよう。 公德心：人の立場を理解し、責任をはたそう。 健康安全：心身を鍛え、たくましく生きよう。</p>
--	---



<p>《キャリア教育目標》 自己の生き方について、主体的に考える力を身に付けさせ、自己の個性や能力・適性を理解し、自らの責任と意思において進路の実現を図らせる。 第1学年：（進路の意識化）身近な進路情報から将来への関心を高め、進んで自己の進路に目を向けられる生徒の育成。 第2学年：（進路の吟味）上級学校や職業情報を積極的に取り入れ、自己の能力と適性を理解し、自らの進路を考えることのできる生徒の育成。 第3学年：（進路の選択と決定）自らの生き方を考え、自己に適した進路の選択・決定をし、将来にわたって努力しつづけることのできる生徒の育成</p>			
<p>《目指す生徒像》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに支え・認め合い人権尊重の精神にたった行動のできる生徒。 ・基礎的・基本的学力を身につけた生徒。 ・自ら学ぶ意欲を持って、自らの生き方を主体的に考え、自らの意思と責任において行動する生徒。 ・心身を鍛え、健康で明るく活動する、豊かな心を持った生徒。 ・幅広い視野を身に付けた、国際性豊かな生徒。 			
<p>《特に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力》</p>			
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力
キャリア教育にかかわる多様な活動の中で、自己の個性を表現しながら、他者の個性を尊重することができる。	自己の思いや考えをまとめ、積極的に表現することにより、自己の理解を深め、主体的に生活することができる。	日常生活における様々な活動場面から、課題を発見し、将来のために、いますべきことについて考え、行動することができる。	様々な体験より得られた学びを、自己の生き方に対する考えや観点からまとめ、主体的な進路選択に活かすことができる。



<p>《キャリア教育目標》《特に身に付けさせたい基礎的・汎用的能力》などの設定の背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校60年を迎えた伝統校であり、保護者や地域住人には卒業生も多く、学校の教育活動に対して協力的な地域に位置する。 ・首都圏近郊の通勤圏に位置し、公共施設や商店会、デパートが広がる商業地域に位置し、中学校が行う職場体験などで生徒を受け入れ先となっている。 ・地域には市立美術館があり、美術館と連携した公立学校の学生の作品展や美術の授業が行われるなど、美術教育が盛んな地域である。 ・生徒を対象としたアンケートの結果、自分の将来を考えることや、現在の学習が自分の将来と結びついていることに対する自覚が希薄であり、日常の学校生活においても自己中心的な傾向目立ち、生徒会活動において消極的な傾向が目立つ。

《実践例－1年生・美術「職業人を描こう」》

美術課題「職業人を描こう」は、中学校でよく行われている「職業調べ」に美術科からアプローチしたものである。当該課題は、中学校学習指導要領の第6節美術の第1学年に定められた目標の達成を目指すと同時に、働く人を描くという行為によって、生徒はじっくりと職業人を観察し絵画として仕上げていくことを通じて、働くこ



中学1年生が描いた職業人写生画

とや職業に対する理解を深めさせようとするものである。なお、本事例では、保護者等の協力を得つつ夏季休業中の美術課題などとして行った。

展開

〈事前指導 第1時～第2時〉

- 美術の授業：題材「職業人の絵を描く」のねらいの確認。
※学校からの依頼状を描くことを決めた職場の方に渡す【*1】。
※保護者への協力依頼【*2】。
- 特別活動（学級活動）

：訪問先へのアポイントの取り方、マナーの練習

※2年生で行う職場体験活動を展望させつつ実施する

〈夏季休業中〉

- 「職業人の写生【*3】」と「インタビュー【*4】」

〈事後指導 第3時〉

- 美術の授業：作品を示しながら各学級で発表会を行う。
- 校内作品展示会

《特に注目すべき点》

【*1】事業所宛に当該課題に対する協力依頼を作成し、生徒に持参させる。

【*2】当該課題に対する保護者の協力をおくために、保護者会や文書によって当該課題に対する説明と協力の依頼を行う。

【*3】職業人の写生にあたっては、職業人が働いている様子だけでなく、職業人がいる場所がわかるように、背景も描き込むように指導する。

【*4】単に写生をするだけでなく、モデルとなった職業人に「仕事の内容」や「社会における職業の役割」などに関するインタビューを行わせ、事後における発表会で自分の感想をまとめさせる。

《本実践事例から得られる示唆—他校への応用に当たって》

働いている人を数時間にわたって描くという行為は、職業や労働に対する理解を深め、将来の職業生活に対する自覚を促す効果がある。中学生は、美術科の好き・嫌い及び美術科への得意・不得意に関係なく「職業人をモデルとした写生」をすることによって美術学習への自己効力感を向上させ、これが進路に関連する自己効力感にも影響を与えることが明らかにされている（山田智之「進路関連自己効力感に影響を与える中学校美術科の取り組みに関する研究」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』第8号，2007）

また、これらの自己効力感に人間関係形成などの対人的スキルが大きな影響を与えていることも明らかにされており、当該課題のような社会人とのふれ合いがある授業展開をする場合、挨拶や礼儀などの対人スキルを向上させる取り組みの重要性を示唆している。このような対人的スキルの向上を図るためには、日々の授業の最初と最後の挨拶、号令などの指導も非常に重要であり、特別活動との連携も有効である。

本実践例は、美術科からアプローチするキャリア教育によって、中学生は進路に関わる成長を促進することを示している。このことは、各教科がそれぞれの教科の特性を生かしてキャリア教育にアプローチすることによって、中学生に様々な進路発達を促進することができることを示唆している。